

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	東郷不動産鑑定株式会社
国分寺(都)-3	東京都	多摩第5	氏名	不動産鑑定士 木俣 美晴
鑑定評価額	35,300,000 円	1 m ² 当たりの価格	278,000 円/m ²	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 4年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 4年 7月 4日	(6)路線価	[令和 4年 1月]	220,000 円/㎡
(2)実地調査日	令和 4年 6月 15日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率 倍率種別	倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等 国分寺市東恋ヶ窪三丁目12番38					②地積 (㎡)	127 ()	③法令上の規制等		
	③形状 1:1.5	④敷地の利用の現況 住宅W2	⑤周辺の土地の利用の状況 一般住宅、アパート等が混在する住宅地域	⑥接面道路の状況 北西4m市道	⑦供給処理施設状況 水道、ガス、下水	⑧主要な交通施設との接近の状況 国分寺1.3km		1 住居 (60, 200) 準防高度(2種) (その他) (70, 160)		
(2) 近隣地域	①範囲 東 30 m、西 30 m、南 60 m、北 30 m		②標準的使用 低層住宅地							
	③標準的画地の形状等 間口 約 10 m、奥行 約 13 m、規模 127 ㎡程度、形状 長方形									
	④地域的特性 特記事項	特にない。		街路 基準方位北、4m市道	交通 国分寺駅北西方1.3km	法令 規制	1 住居 (70, 160) 準防高度(2種)			
	⑤地域要因の将来予測 低層住宅を中心とした住宅地域として概ね成熟している。当面は現況で推移するものと予測される。									
(3)	最も有効使用の判定 低層住宅地					(4)対象基準地の個別的要因		方位 +1.0		
(5)	鑑定評価の手法の適用		取引事例比較法		比準価格		278,000 円/㎡			
			収益還元法		収益価格		141,000 円/㎡			
			原価法		積算価格		／ 円/㎡			
			開発法		開発法による価格		／ 円/㎡			
(6)	市場の特性 同一需給圏は国分寺市及び隣接市のうち、低層一般住宅が標準的使用と認められる住宅地域である。主たる需要者は30歳代から40歳代の圏内居住者や圏内勤務者で、圏外からの転入も多い。JR中央線沿線の駅徒歩圏の住宅地は人気が高く、市場において、100㎡から120㎡の更地で3,000万円から4,000万円程度、戸建住宅の新築物件は5,000万円台から6,000万円台が需要の中心価格帯となる。									
(7)	試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由 国分寺駅徒歩圏の住宅地で、単身者や都心への通勤者等のための共同住宅が見られるが、土地価格に見合う賃料水準が形成されていないことから、収益価格が低位に試算された。市場の不動産取引は実需に基づく自用目的が中心となり、信頼性の高い取引事例から求めた比準価格は現実の不動産市場を反映している。よって、比準価格を標準に収益価格は参考に留め、公示価格を規準とした価格及び指定基準地からの検討を踏まえて、鑑定評価額を上記の通り決定した。									
(8) 公示価格	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地 標準地番号 国分寺-11		②時点 修正	③標準化 補正	④地域要因の比較	⑤個別的 要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内 内訳	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 +1.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因 街路 0.0 交通 -1.0 環境 +2.0 行政 0.0 その他 0.0
	公示価格 275,000 円/㎡		[101.6] 100	100 [101.0]	100 [101.0]	[101.0] 100	277,000			
(9) 指定基準地からの検討	①指定基準地番号 国分寺(都)-2		②時点 修正	③標準化 補正	④地域要因の比較	⑤個別的 要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内 内訳	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 +2.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因 街路 0.0 交通 0.0 環境 +15.0 行政 -5.0 その他 0.0
	前年指定基準地の価格 299,000 円/㎡		[103.0] 100	100 [102.0]	100 [109.3]	[101.0] 100	279,000			
(10) 対象基準地の前年標準価格等の検討	①-1 対象基準地の検討 ☒ 継続 ☐ 新規 前年標準価格 272,000 円/㎡			③ 価格 変動 要因 の 形成	[一般的 要因] 市内住宅地の地価はコロナ禍の令和2年3月頃に下落に転じたが、令和3年半ばから緩やかな上昇基調にまで回復している。					
	①-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地域 要因] 国分寺駅からはやや距離があるものの、徒歩距離圏に含まれ、土地への需要は比較的底堅い。					
	②変動率 年間 +2.2 % 半年間 %				[個別的 要因] 代替、競争関係にある他の不動産と比較した優劣、競争力の程度等について、特段の変動はない。					